

No.32

# 明日への扉

## ワールドカップで サクラを咲かせる!

ありみず ごうし  
**有水 剛志** さん



ワールドカップ大会出場を目前にして、地元・鹿屋市で有水さんを激励しようと、鹿屋高校平成4年卒業の同窓生有志が「有水ジャパン激励会実行委員会」を結成。6月、激励会を前に、実行委員のメンバーとともに市長を訪問した。

昭和48年旧末吉町生まれ。昭和56年鹿屋市に転入。鹿屋高校、早稲田大学卒業後、社会人ラグビーで活躍。早稲田大学ラグビー蹴球部コーチ、U20日本代表フォワードコーチを経て、平成26年から女子15人制日本代表「サクラフィフティーン」ヘッドコーチ。東京都在住。(43歳)

小・中学校では野球やソフトボールをしていましたが、田崎中学校時代の先輩が、鹿屋高校でラグビー部のキャプテンをしていて、その先輩からの勧誘で、高校からラグビーを始めることになりました。入部当時は部員が少なく、県大会の1、2回戦で負けるようなチームでしたが、3年生の時に、春の大会で9年ぶりに準決勝まで進むことができました。結果は鹿児島実業高校に10対9で惜敗しましたが、この時の悔しさが、その後もラグビーを続けたいと思うきっかけにもなりました。

よく見ていた大学ラグビーの中継で、早稲田大学と明治大学が対戦する伝統の「早明戦」に憧れ、早稲田大学でラグビーをやりたいと思うようになっていました。全国大会（花園）に出るような有名選手が多く集まる強豪大学に対し、早稲田大学は一般入試で入る部員にもチャンスがあるというのも受験の決め手でした。田舎の無名高校生の自分でもチャレンジできると思ったのです。大学には合格したものの、すぐにラグビーができると思っていたら大間違いでした。伝統ある早稲田大学ラグビー蹴球部は常に大学日本一を目指すチーム。毎年4月、約100人の入部希望者に対し、3週間の入部テストが行われていたのです。テストの存在さえも知らず、それに向

けた準備もしていなかったため、結果は不合格。「早稲田でラグビーやる」という夢が早々に絶たれ、大学を辞めようと思いましたが、しかし、次の年の春休みにトレーニングしてテストに備え、2年生で無事合格し、入部することができました。そして入部4年目にして、最大の夢だったレギュラーになることができ、早明戦にも出場。明治大学に勝つことはできませんでしたが、大学選手権で準優勝することができました。

コーチ業は平成18年から。早稲田大学時代の同期のキャプテンが、母校の監督になるということで誘われたのが最初です。母校とは言え、初めてのコーチ業が早稲田大学とあって、様々なプレッシャーを感じた一方、指導者として強く意識するようになりました。

このように、これまでの経験の積み重ねで、今こうして女子15人制日本代表のヘッドコーチにあるのだと、強く感じています。チームは、8月にアイルランドで行われる「女子ラグビーワールドカップ2017」に4大会ぶりに出場します。目標はベスト8。鹿屋の皆さんも、ぜひ応援をお願いします。

**有水 剛志さんが出演**  
FMかのや (7・2MHz)  
7月24日(月) 9時5分から  
(予定)